

厚生労働科学研究費補助金(腎疾患対策研究事業)

健診データを基盤として、慢性腎臓病該当者の医療費過剰支出と
末期腎不全発症リスクを評価するデータベース構築研究
分担研究報告書

平成 23 年度岩手県人工透析実施状況調査の概要報告

研究分担者 小田島 智弥

(岩手県保健福祉部長)

研究協力者 藤尾 修

研究協力者 千葉 英之

(岩手県保健福祉部)

研究要旨

岩手県では平成 11 年度から、県内の透析患者の実態把握並びに岩手県内の透析施設の透析患者受入れ体制及び受入れ可能な患者数等の実態を把握するため、透析施設へのアンケート調査を行ってきており、平成 23 年度の調査結果は以下のとおりである。

1)平成 23 年 9 月における岩手県の人工透析患者数は 2,898 人であり、人口 100 万人当たり 2,178.7 人で、全国と比較してやや少なかった。2)透析装置は 968 台で、透析患者数に対して理論上 122 台の余力があり、642 人の透析患者を受け入れる余力があった。3)透析患者の男女比は 1.9 で全国と概ね同様であった。4)腹膜灌流による透析治療は 118 人(4.1%)で全国(3.3%)と比較してその割合が高かった。5)平成 23 年度は岩手県内において腎移植が 4 件実施され、平成 11 年度からの累計は 57 人となった。6)平成 23 年度の透析患者総数は本調査を始めてから初めて減少した。7)陸前高田市で 7 人(-11%)、大槌町で 13 人(-31%)、山田町で 15 人(-25%)透析患者数が減少し、津波被害を受けた地域で大きな減少率が観察された。8)入院・通院施設状況調査では、有効回答数 2,780 人中 149 人(5.4%)が在住する保健医療圏以外の施設で治療を受けていた。また、そのうち 22 人が県外で治療を受けていた。9)67.4%が自家用車、14.0%が送迎バス、7.6%がタクシー、4.9%の患者が公共交通機関(バスや列車)を利用していた。10)片道 1 時間以上の通院時間を要する患者は 52 人で昨年度より 16 人減少した。その交通手段は、自家用車が 25 人(48%)、公共交通機関が 13 人(25%)、送迎バスが 14 人(27%)であった。2 時間以上の通院時間を要する患者は 3 名で昨年と同数であった。

本調査結果により、増加し続けていた岩手県透析患者総数は平成 23 年度に初めて減少したことが明らかになった。この要因としては、東日本大震災津波の影響があるものと推測される。また、通院に 60 分以上を要する患者数は減少したが、送迎バスによる通院環境改善の効果が認められ、透析施設の努力が考えられた。しかし、岩手県内における医療環境の地域格差は改善しているとは考えられず、沿岸や山間地域での透析医療環境の改善が必要と考えられる。

A. 研究目的

岩手県では平成 11 年度から、県内の透析患者の実態把握並びに岩手県内の透析施設の透析患者受入れ体制及び受入れ可能な患者数等の実態を把握するため、透析施設へのアンケート調査を行ってきた。この調査は、全国では急増していると報告されている透析患者数について¹⁾、岩手県における世代別及び地域別の透析患者数、地域性の特徴、患者受入れ可能人数を地域ごとに把握することで、本県の透析患者の受入れ体制を検討するための資料とすることを目的としている。また透析患者に係る医療費負担、透析施設や職員の負担がどのように推移していくかを予測することで、県としての長期的な透析に関する対策を検討するための資料ともなっている。

B. 研究方法

岩手県人工透析実施状況調査

平成 11 年度から実施している調査の内容について、以下に概要を説明する。

1. 調査票の郵送

平成 11 年度から毎年 8 月に県内の透析施設に調査依頼文書と調査票を郵送し、透析患者数と治療状況(血液透析・腹膜透析・腎臓移植)について調査を実施してきた。また隣県で治療を受けている可能性を考慮し、八戸市、鹿角市、横手市、気仙沼市内の透析施設にも同様の文書と調査票を郵送し、透析治療状況調査の協力を依頼している。

平成 23 年度は、県内 45 透析施設及び県外 12 透析施設に 8 月下旬に文書と調査票を郵送し、45 の県内透析施設全てから回答を得た。また県外の 12 施設全てからも回答を得た。

2. 調査票内容

調査票は様式 1 から様式 4 までの 4 種類で

ある。平成 23 年度調査においては、「日本透析医学会統計調査委員会」の集計方法に準じて「透析が必要となった理由」についても調査項目として追加した。尚、この調査項目は今回初めて行ったものであるため、次回調査以降は集計方法を見直す可能性がある。

記載要領を上記調査票に同封して送付し、記載者への周知を図っている。平成 23 年度岩手県人工透析実施状況調査に同封した記載要領は、以下のとおりである。

- ① 平成 23 年 9 月 1 日から 9 月 7 日までの間に、貴施設で人工透析を受けた岩手県内に住所を有する患者について記載をお願いします。
- ② 患者名は記号や番号で記載して差し支えありません。「入院」「外来」の別を○で囲んでください。
- ③ 年令は、平成 23 年 9 月 1 日現在の満年齢を記載してください。
- ④ 性別は「男」「女」を○で囲んでください。
- ⑤ 住所地は、患者の住所地の市町村名を記載してください。
- ⑥ 9 月 1 日から 9 月 7 日までの透析治療状況を記載してください。日中、夜間の別は該当する項目を○で囲んでください。
ア 「夜間」とは、透析開始が午後 5 時以降又は透析終了が午後 9 時以降の場合をいいます。
イ 治療日によって「日中」と「夜間」両方に該当する場合は、「夜間」を選択してください。
- ⑦ 交通手段及び所要時間は、該当する交通手段及び片道の所要時間を選択してください。
ア 通院日により又は往復で交通手段が異なる場合は、主なもの1つを選択してく

ださい。

イ 「バス・鉄道」のバスは路線バスのことを指します。

ウ 老人福祉施設等の入所者が当該施設の送迎車等で通院する場合は「その他」を選択してください。

3. 統計並びに解析手法

1) 透析医療機関数報告

岩手県内透析施設の施設数、透析装置数、透析患者数(腹膜灌流も含む)、透析余力(透析装置稼働人数マイナス実際の透析患者稼働人数)、夜間透析患者数を算出した。透析患者数は、市町村別に算出し、透析施設別の患者数は公表していない。

2) 透析患者属性

透析患者の性別、入院者・外来通院者数、年齢階級別人数(10歳階級別)、週当たりの透析回数の平均値を算出した。

3) 透析患者通院情報

入院先又は通院先透析施設が、住所のある保健医療圏内なのか圏外なのか、通院に要する時間(片道)、移動交通手段別に集計した。

4) 腎移植患者数報告

平成11年度以降に調査票により医療機関から報告のあった腎移植患者数の累計を示し、平成22年度と平成23年度に関しては新規移植者数を示した。また、移植後の生着状況や血液透析の再開例、死亡例についても情報を収集した。

5) 透析患者数年度別推移

平成11年度以降の透析患者数について市町村別にその推移を示した。

6) 市町村別透析治療実施施設別の患者数

岩手県は四国4県に匹敵する広大な面積を有し、二つの大きな山系(奥羽山脈・北上高地)と複雑な海岸地形があり、地理的にそれぞ

れの地域が分断された状況にあり、透析施設が都市部に集中している傾向にあることから、遠隔地在住の透析患者の通院に相当な時間を要することも想定される。このような背景を踏まえ、保健医療圏域別に透析患者の透析治療実施地域(保健医療圏)による、在住市町村の属する地域とは別の地域で透析治療を受けている患者数を示した。

7) 市町村別入院・通院状況比較

前述したように岩手県は広大な面積を有し、それぞれの地域が分断された状況にあり、公共交通の利便性が都市部と比べて低いことから、遠隔地在住の透析患者の通院に相当な時間を要することも想定されることから、市町村別に透析患者の通院状況(片道の通院時間と交通手段)を示した。

8) 市町村別年齢階級別透析患者数

岩手県の山間地域は、高齢化率が高く、中山間地域においては高齢の透析患者が多く存在していることが推測される。市町村別に透析患者の年齢階層別透析患者数を示すことで、地域の抱える問題が明らかにされることが期待できる。

9) 透析が必要となった理由

「日本透析医学会統計調査委員会」では、毎年わが国の慢性透析療法の現状についての定点観測結果をWEB上に公開している¹⁾。その調査項目の中に「透析が必要となった理由」の項目があり、透析治療導入の原因となった原因疾患が提示されている。平成23年度岩手県人工透析実施状況調査においても「透析が必要となった理由」を新たに調査項目に加え、増加してきた透析患者の腎不全原因疾患がどのような疾患であるのか、そして全国集計と比較してどのような特色があるのかを探った。

C.研究結果

平成 23 年度人工透析実施状況調査の概要

表 1 には透析実施医療機関の総数と透析装置数、透析患者総数、夜間透析のための透析装置数と夜間透析患者数を示した。

岩手県内の透析施設で人工透析を受けている患者総数は、岩手県外在住者(県外患者)を含み、かつ県外で治療を受けている透析患者を除いた数である。県外患者 36 人を含めると総数は 2,816 人であった。

平均透析回数と透析治療所要時間から導かれる理論上の必要透析台数を算定すると、岩手県では 846 台であり、設置されている 968 台と比較した場合 122 台の透析装置の余力があると推計された。なお、医療機関からの回答によると、追加可能患者総数は全体で 642 人であった。前年に比べ透析装置は 35 台増加していた。尚、患者 2 人に対して 1 台が必要とした場合には 440 台の不足となる。

表 2 は、県外で治療を受けている患者も含めた岩手県内透析患者総数と、平成 22 年度からみた平成 23 年度の患者総数の増加数を示したものである。平成 22 年度から平成 23 年度にかけて患者総数は 1 人減少した。血液透析患者は 7 人増加し、腹膜灌流は 8 人減少していた。9 月 1 日時点における血液透析患者総数に占める入院患者の割合は 8.5%であった。男女比は 1.91 で、全国集計データ(男女比 2.13)¹⁾と概ね同じ値であった。腹膜灌流による透析治療者は全体の 4.1%で、全国平均(3.3%)より多かった。

表 3 は 10 歳階級別にみた血液透析患者数とその構成比を示したものである。最年少者は 20 歳、最年長者は 98 歳であった。透析患者は 40 歳以上の者が全体の 96%を占め、この中でも 60 代が最も多く、全体の 29.5%を占めた。

70 歳以上の透析患者割合は 40.0%を占め、透析患者の多くが高齢者であることが判明した。

表 4 は血液透析患者における一週間当たりの平均透析回数と 1 回の平均透析時間を示したものである。岩手県の血液透析患者の平均像は、週に 3 回の血液透析を受け、1 回当たりの透析時間は約 4 時間であった。

表 5 は人工透析を受けている患者の保健医療圏(岩手県は盛岡、岩手中部、胆江、両磐、気仙、釜石、宮古、久慈、二戸の 9 保健医療圏からなる)内に存在する透析施設又は保健医療圏外に存在する施設で入院治療又は外来通院治療をしている患者の総数を記したものである。有効回答数 2,780 人中 5.4%に当たる 149 人が、在住する保健医療圏以外の圏域の施設で治療を受けていた状況が判明した。またそのうち 22 人が県外で治療を受けていた。

表 6 は、通院に要する時間別に分類した透析患者数である。全体のおよそ 84%が通院に要する時間が 30 分以内であったが、1 時間以上の通院時間を要する患者が約 52 人(約 2%)おり、2 時間以上の時間をかけて通院している患者も 3 人いた。平成 22 年度に比べ 1 時間以上かけて通院している患者数は 16 人減少した。

表 7 は腎移植者数を示したものである。平成 22 年度に移植を受けた患者は 1 人であり、平成 23 年度は 9 月の時点で 4 人が移植を受けていた。平成 11 年度からの累計をみると、腎移植を受けた総患者数は 57 人であり、全体のおよそ 8 割が生体腎移植であった。移植腎の生着が確認されているのは 38 人(66.7%)であり、再び透析治療に戻っている者が 4 人、死亡が 4 人、不明が 11 人であった。

表 8 は平成 11 年度から平成 23 年度までの市町村別の人工透析患者数の推移を示している。透析患者総数は平成 11 年度から平成 14 年度まで毎年度 5% 超の増加を示していたが、平成 15 年度から平成 22 年度までの増加率は 0.3% から 4.8% の間で推移し、平成 22 年度の増加率は 3.1% であった。

しかし、平成 23 年度は、調査を始めてから初めて透析患者総数が減少した。地域別に見ると、両磐地域、気仙地域、釜石地域、宮古地域、久慈地域で透析患者数が減少し、東日本大震災津波の津波被害の大きかった沿岸地域を中心に透析患者数が減少していることが大きな特徴である。

市町村別に見ると、陸前高田市で 7 人 (-11%)、大槌町で 13 人 (-31%)、山田町で 15 人 (-25%) 透析患者数が減少し、いずれも過去にない大きな減少率であった。上記 3 市町は、いずれも津波により中心市街地が甚大な被害を受けた地域である。津波による死者行方不明者が多いのも上記 3 市町の特徴であり、透析患者総数の減少には、震災や津波に関連した死亡や、転居により他市町村に移動した患者が多数存在していることが関与していると推測される。

本調査では、患者個人の特定はできないことから、震災に関連して透析患者がどの程度死亡したのか、また震災に関連して転居したのかについての情報を把握することはできない。災害弱者である透析患者が今回の震災でどの程度死亡したのか、そして他の透析施設で透析を受けなければならなかったのかについては、より詳細な調査が必要と考えられる。

表 9 は各市町村の透析患者がどの保健医療圏で治療を受けているかを示したものである。ほとんどの患者が自分の居住する保健医療圏

の透析施設で治療を受けているが、盛岡保健医療圏では 950 人の血液透析患者の中で 19 人が他の圏域の透析施設で治療を受けていた。盛岡圏在住者の圏域外への通院先として最も多いのは岩手中部保健医療圏(花巻市・北上市など)であるが、盛岡保健医療圏の南端に位置する紫波町の患者(7 人)は、遠く離れた(30-40km)盛岡市の施設よりも距離的に近い(15-20km)花巻市の施設で治療を受けている例が多いためと思われる。一方で盛岡医療圏に属する葛巻町と八幡平市は両市町とも盛岡市から遠く離れ、両市町ともに透析施設を持っていない。この二つの市町の透析患者 87 人は全員が遠隔地の透析施設に通院していると考えられる。葛巻町の 5 人の透析患者は、医療圏外の久慈市、二戸市及び一戸町に通院していた。

盛岡医療圏以外の保健医療圏における圏域外の治療先は、ほとんどが盛岡保健医療圏であった。盛岡保健医療圏以外の市町村から盛岡保健医療圏で治療を受けている患者総数は 53 人に上る。この中には盛岡市内の透析施設に入院して治療を受けている患者もいるものと推測されるが、二戸保健医療圏、宮古保健医療圏の合計で 17 人の患者が盛岡保健医療圏で治療を受けており、これらの患者も遠距離の通院治療を受けている。

表 10 は、各市町村別に人工透析患者の入院・通院状況を示したものである。通院状況は、交通手段別に通院に要する時間を表記してある。通院状況調査では、全体の 67.4% が自家用車で通院しており、14.0% が送迎バス、7.6% がタクシー、公共交通機関(バスや列車)は 4.9% の透析患者が利用していた。市町村別に通院時間の分布をみると、片道の通院時間が 60 分を超える透析患者が多かった医療

圏は盛岡保健医療圏であり、透析患者総数に占める通院時間 60 分以上の患者の割合が最も高かったのも盛岡保健医療圏であった。交通手段に着目すると、片道 1 時間以上の通院時間を要する 52 人の透析患者の交通手段は、自家用車が 25 人(48%)、公共交通機関が 13 人(25%)、送迎バスが 14 人(27%)であった。タクシー利用者 194 人は、全員が通院時間が 1 時間以内であり、30 分以内が 188 人(97%)であった。

表 11 は 10 歳階級別にみた市町村別人工透析患者数である。先にも示したように透析患者の年齢階級別患者数をみると、40 歳以上の患者が全体の 96%を占め、最も患者数が多い年齢階級は 60 代であり、ついで 70 代が多い。市町村別に年齢階級分布を比較すると、都市部の盛岡市では 60 代が 31.1%、70 代が 24.4%、50 代が 18.8%であり、患者割合は 60 代が最も高い。一方、三陸沿岸地方では、久慈・宮古・釜石・気仙地域ともに 70 代の割合が最も高い。都市部に比べ中山間地域では高齢化が進み、壮年人口に比して高齢者人口の占める割合が高いことも関与していると思われる。

表 12 は「透析が必要となった理由」について回答数の多い順に列挙したものである。まず集計全体をみて留意しなければならない点は、全患者 2,870 人中 1,113 人(36.8%)が原因不明または無回答であることである。日本透析医学会の示すわが国の慢性透析医療の現況では、2010 年において腎不全原因不明はわずかに 10.7%に過ぎない¹⁾。全体の 4 割近くが原因不明または無回答である点は、全国集計との比較において注意が必要である。また、慢性糸球体腎炎の取り扱いにも注意が必要である。日本透析医学会の集計では、IgA 腎症や

ネフローゼ症候群といった原因疾患は取り上げられていない。そもそも糸球体での免疫学的反応を基盤として生じる糸球体腎炎は、その病理学的な特徴から幾つかの疾患群に分けられているが、その多くを占める IgA 腎症や膜性腎症とともにその他の頻度の少ない糸球体を病変とする腎炎をも含めて総称して慢性糸球体腎炎として取り扱うことが一般的である。またネフローゼ症候群は、過剰な尿タンパクを呈する臨床症状を示す病態であって病名ではない。その原因疾患は、糖尿病性腎症(糖尿病性糸球体硬化症)を除くと膜性腎症などの慢性糸球体腎炎が原因となっていることが多いことから、ネフローゼ症候群という疾患グループを腎不全原因として扱うのは不適切であり、慢性糸球体腎炎や糖尿病性腎症などと分類して、その腎不全に至った大本の原因を記すべきであろう。しかし、臨床家の多くが、糖尿病性腎症由来のネフローゼ症候群を慢性糸球体腎炎由来のネフローゼ症候群とは区別して糖尿病性腎症として登録している可能性が高いと考えられるため、本稿では、慢性糸球体腎炎の総称として、IgA 腎症、ネフローゼ症候群、少数ではあるが急速進行性糸球体腎炎も含めて再集計結果もまとめて提示する。また高血圧性腎硬化症と腎硬化症が別々に取り上げられているが、本稿ではこの二つをまとめて集計する。

腎不全原因疾患として最も多かったのは糖尿病性腎症であり、全体の 38.6%を占めていた。全国集計(43.5%)と比較してその割合は低い。慢性糸球体腎炎は 25.2%であったが、上記で述べた糸球体腎炎関連疾患を含めると 534 例(30.4%)であった。全国集計の 21.2%と比較するとかなり多い¹⁾。多発性のう胞腎を原因である患者は 60 人(3.4%)で全国集計

(2.4%)より多かった。一方で高血圧性腎硬化症を原因としている患者は156名(8.9%)であり、全国集計(12.5%)と比べて低かった¹⁾。

D. 考察

平成11年度から毎年実施してきた人工透析実施状況調査結果を要約すると以下のとおりである。

- 1) 平成23年9月における岩手県の人工透析患者数は2,898人、人口100万人当たり2,178.7人で、全国¹⁾(2010年全国では297,126人(2,320.3人/100万人))と比較してやや低かった。
- 2) 透析装置は968台存在し、透析患者数に対して理論上122台の余力がある。又、医療機関からの回答によるとさらに642人の透析患者を受け入れる余力がある。
- 3) 透析患者の男女比は1.9で全国¹⁾と概ね同様であった。
- 4) 腹膜灌流による透析治療は118人(4.1%)で全国(3.3%)¹⁾と比較して割合が高かった。
- 5) 平成22年度における岩手県内の腎移植は1件、平成23年度は4月から9月までの間に4件であり、平成11年度からの累計は57人であった。
- 6) 平成11年度からの透析患者総数の年次推移を見ると平成14年度までは毎年度5%超増加していたが、以後、増加率は年ごとに大きな変動をみせながらやや鈍化して平成22年度まで推移した。しかし、平成23年度は調査を始めてから初めて減少した。
- 7) 市町村別に見ると、陸前高田市で7人(-11%)、大槌町で13人(-31%)、山田町で15人(-25%)透析患者数が減少し、津

波による甚大な被害を受けた市町で過去にない大きな減少率が観察された。

- 8) 入院・通院施設状況調査では、有効回答数2,780人中5.4%に当たる149人が在住する保健医療圏内の施設で治療を受けていない状況が判明した。また、そのうち22人が県外で治療を受けていた。
- 9) 全体の67.4%が自家用車で通院しており、14.0%が送迎バス、7.6%がタクシー、公共交通機関(バスや列車)は4.9%の透析患者が利用していた。
- 10) 片道1時間以上の通院時間を要する透析患者は52人で昨年より16人減少した。その交通手段は、自家用車が25人(48%)、公共交通機関が13人(25%)、送迎バスが14人(27%)であった。2時間以上の通院時間を要していた透析患者は3人で、昨年度と同数であった。
- 11) 腎不全原因疾患として最も多かったのは糖尿病性腎症であり、腎不全原因不明例を除いた全体の約4割を占め、ついで慢性糸球体腎炎が3割を占めていた。高血圧性腎硬化症が原因とされたのは8.9%と全国集計よりやや低かった。

本年度の調査結果を昨年度と比較してみると、平成23年度は調査開始以来、初めて透析患者総数が減少したことが大きな特徴と言える。特に東日本大震災津波による津波被害が甚大であった三陸沿岸地域の透析患者数の減少が顕著であった。大震災に巻き込まれて直接死亡した透析患者、自宅を失い、避難所生活を続けるうちに命を落とした透析患者、遠隔地への避難生活を余儀なくされ、遠くはなれた地域に転居した透析患者、種々の状況が、三陸沿岸地域での透析患者数の減少へと繋が

ったことが推測される。

透析治療は、透析装置や透析液などの各種医療資源のみならず、大量の水と十分な電力が安定的に供給されなければ継続できなくなる。その意味で、透析患者は、今回のような大規模災害において、最も大きな危険を負う災害弱者である。震災時に岩手県在住の透析患者がどのような状況に置かれ、そして行政や医療側がどのような対応を果たしたのかを検証し、将来起こり得るであろう災害に対してより良い対策を講じることが重要であり、岩手県や関係機関、団体に災害時の透析医療確保に係る具体的な対応について検討が進められている。

昨年度の本報告書で、岩手県の透析患者の治療状況で顕著な特徴として挙げられたのは、非常に遠い透析施設へ長い時間かけて通院している患者の存在である。今回の報告書では、遠距離通院者が大きく減少していた。その内訳を見ると、自家用車や公共交通機関を利用している遠距離通院者の所要時間は殆ど変わっていないのに対して、送迎バス利用者の片道の通院所要時間が1時間以上の者の割合が減少しているのが特徴である。これには、透析施設の対応があるものと考えられる。しかし、片道90分以上の通院時間をかけている透析患者は、盛岡市2人、八幡平市4人、宮古市1人、岩泉町1人、葛巻町6人、藤沢町1人、住田町1人存在した。通院時間が長い透析患者が特に目立った市町村は、昨年と同様に葛巻町と八幡平市である。両市町とも盛岡市から離れた場所に位置し、透析患者が居住している市町内に透析施設が存在していない。また、同じ保健医療圏内の透析施設に通院するとしても距離が離れた透析施設に通院しなければならない。特に葛巻町では2人

が片道2時間以上かけて公共交通機関を利用して通院しており、その地理的な要因もあり透析治療を受けるのに困難な地域の一つであると考えられる。

最後に透析患者の年齢別分布を見ると、都市部では60代の患者が多く、中山間地域では70歳以上の高齢透析患者が多いのが特徴であった。70歳以上の高齢透析患者が多かった理由としては、山村漁村地域での急速な高齢化が影響していると推測されるが、人口動態や生活習慣病等の原疾患の発症動向・受診行動等の分析も今後必要と考えられる。

E. 結論

平成11年度から実施してきた人工透析実施状況調査について、平成23年度の調査結果、岩手県では約2,900人の透析患者が存在している。県内透析施設の透析患者受入れ余力は全体で642人分であり昨年より増加した。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波の影響と推測される透析患者数の顕著な減少が三陸沿岸地域で見られ、今まで増加し続けてきた透析患者数は、岩手県全体でみて初めて減少した。沿岸地域の透析患者に占める高齢者が高いこと、透析患者受入れ体制に地域差があること、透析患者の中には片道2時間以上かけて通院している者もいることなどから、岩手県内における地域間格差は解消されておらず、より深刻化する可能性を孕んでいる。県内の社会情勢の変化を慎重に見守りながら、岩手県内のどこにいても良質な透析治療を受けられるような体制作りを進めていく必要がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

引用文献

1. 椿原美治, 図説 わが国の慢性透析療法
法の現況(2010年12月31日現在).
2011, 日本透析医学会統計調査委員
会.

医療施設の状況

(平成23年9月1日現在)

1 施設の名称等	名称 TEL — — (所在地) Fax — — 記入担当者 所属・職・氏名 _____ (透析医療の開設年月; 昭和・平成 年 月 日)					
2 透析診療科	(病院の場合のみ) _____科					
3 現在設置している人工腎臓装置の状況	人工腎臓装置	個人用 _____台				同時に透析できる最大人数
		多人数用	_____人用 _____設備 _____台	_____人用 _____設備 _____台	_____人分	
		※設備: 透析液供給装置等に患者監視装置等を接続した設備一式 ※台数: 患者監視装置の設置数				
今後の整備計画 _____人用 _____台 (時期 _____)						
4 透析に携わっている従事者数	医師 _____人	看護師 _____人	臨床工学技士 _____人	看護助手 _____人	事務員 _____人	その他 _____人
5 透析患者受入れ状況	現有の人工腎臓装置の台数で、最大何人の患者を受け入れることができますか。 _____人 (A)		人工腎臓装置による透析を受けている患者は、現在何人ですか。(県外患者を含みます ※様式2の合計と一致しなくても可) (慢性) _____人 (急性) _____人 (合計) _____人 (B)	現有の人工腎臓装置の台数で、あと何人の患者を受け入れることができますか。 _____人 (c) = (A) - (B)		
6 夜間(17時以降の開始又は21時以降の終了)透析状況	① 実施している。(実施している曜日: 月・火・水・木・金・土・日) ② 実施の予定がある。(_____年 _____月ごろ開始する予定である。) ③ 実施できない。(理由 _____) (②又は③の場合で、岩手県内の医療機関のみ) 現在、透析は何時までに終了しますか。(午後 _____時までに終了)					
7 送迎バスの運行状況(送迎バスがある場合のみ記入願います。)	① 所有台数 _____台 ② 運行状況(一週間単位での運行回数、運行地域等)					
8 要望・意見	(岩手県の腎不全対策等に関して要望・意見があれば、何でも結構です。)					
9 市町村への情報提供	災害時等において、他の医療機関からの透析患者斡旋の参考とするため、次の情報を市町村に提供することに同意しますか。 ○医療機関名、所在地、電話番号、受入可能患者数(調査時点: 上記5のC欄) ・同意する _____ ・同意しない _____					

人工腎臓装置による透析治療を受けている慢性腎不全患者の状況

医療機関名 _____

患者(符号で記載) (入院・外来の別)	年 齢	性 別	住所地 (市町村名)	9月1日から9月7日までの透析治療状況		透析が必要となっ た理由(疾病名等) ※判明している場合のみで可	交通手段及び所要時間 ※ 該当個所に○印を記入のこと。
				日中、夜間の別	透析回数及び1回の時間		
(記載例) 患者A (入院・ <u>外来</u>)	50	<u>男</u> <u>女</u>	盛岡市	<u>日中</u> 夜間	2回 4時間	糖尿病	自家用車、 <u>バス・鉄道</u> 、タクシー、バイク・自転車、徒歩、送迎バス等、その他 30分以内、 <u>60分以内</u> 、90分以内、120分以内、120分以上、不明
(入院・外来)		男女		日中 夜間	回 時間		自家用車、バス・鉄道、タクシー、バイク・自転車、徒歩、送迎バス等、その他 30分以内、60分以内、90分以内、120分以内、120分以上、不明
(入院・外来)		男女		日中 夜間	回 時間		自家用車、バス・鉄道、タクシー、バイク・自転車、徒歩、送迎バス等、その他 30分以内、60分以内、90分以内、120分以内、120分以上、不明
(入院・外来)		男女		日中 夜間	回 時間		自家用車、バス・鉄道、タクシー、バイク・自転車、徒歩、送迎バス等、その他 30分以内、60分以内、90分以内、120分以内、120分以上、不明
(入院・外来)		男女		日中 夜間	回 時間		自家用車、バス・鉄道、タクシー、バイク・自転車、徒歩、送迎バス等、その他 30分以内、60分以内、90分以内、120分以内、120分以上、不明
(入院・外来)		男女		日中 夜間	回 時間		自家用車、バス・鉄道、タクシー、バイク・自転車、徒歩、送迎バス等、その他 30分以内、60分以内、90分以内、120分以内、120分以上、不明
(入院・外来)		男女		日中 夜間	回 時間		自家用車、バス・鉄道、タクシー、バイク・自転車、徒歩、送迎バス等、その他 30分以内、60分以内、90分以内、120分以内、120分以上、不明
(入院・外来)		男女		日中 夜間	回 時間		自家用車、バス・鉄道、タクシー、バイク・自転車、徒歩、送迎バス等、その他 30分以内、60分以内、90分以内、120分以内、120分以上、不明
(入院・外来)		男女		日中 夜間	回 時間		自家用車、バス・鉄道、タクシー、バイク・自転車、徒歩、送迎バス等、その他 30分以内、60分以内、90分以内、120分以内、120分以上、不明
(入院・外来)		男女		日中 夜間	回 時間		自家用車、バス・鉄道、タクシー、バイク・自転車、徒歩、送迎バス等、その他 30分以内、60分以内、90分以内、120分以内、120分以上、不明

様式3

腹膜灌流等による透析治療を受けている慢性腎不全患者の状況

(平成23年9月1日現在)

医療機関名

患者名 (符号で記載) (入院、外来の別)	年 齢	性 別	住所地 (市町村 名)	治療法の区分	カテーテルの植込み手術を 行った医療機関名(貴院の場 合は記載省略可)
(記載例) ○○(患者A等の表 示も可) (入院・外来)	30	男 ・ 女	○○市 (市町村名)	IPD CAPD CCPD その他()	○○○病院 (医療機関名称)
(入院・外来)		男 ・ 女		IPD CAPD CCPD その他()	
(入院・外来)		男 ・ 女		IPD CAPD CCPD その他()	
(入院・外来)		男 ・ 女		IPD CAPD CCPD その他()	
(入院・外来)		男 ・ 女		IPD CAPD CCPD その他()	
(入院・外来)		男 ・ 女		IPD CAPD CCPD その他()	
(入院・外来)		男 ・ 女		IPD CAPD CCPD その他()	
(入院・外来)		男 ・ 女		IPD CAPD CCPD その他()	

腎移植を受けた患者の状況

(平成23年9月1日現在)

医療機関名 _____

平成11年度以降に移植を受けた患者 (符号で記載) (入院、外来の別)	年齢	性別	住所地 (市町村名)	移植手術を受けた 年月日 (年齢)	移植実施病院名	死体腎・生体腎移植の別	予後の状況
(記載例) ○○(患者A等の表示も可) (入院・外来)	53	男 女	○○○市 (市町村名)	H15.6.3 (47)	○○○病院 (病院名称)	死体腎 生体腎	生着中 再透析 死亡 不明
(入院・外来)		男 女		()		死体腎 生体腎	生着中 再透析 死亡 不明
(入院・外来)		男 女		()		死体腎 生体腎	生着中 再透析 死亡 不明
(入院・外来)		男 女		()		死体腎 生体腎	生着中 再透析 死亡 不明
(入院・外来)		男 女		()		死体腎 生体腎	生着中 再透析 死亡 不明
(入院・外来)		男 女		()		死体腎 生体腎	生着中 再透析 死亡 不明

- ※1 平成11年度以降に腎移植を受けた、岩手県内に住所を有する患者について、貴施設に入院・通院している等、把握している範囲で記載願います。
- 2 過去に入院・通院等していた患者で、現在は入通院していない患者については、予後の状況を「不明」として記載願います。
- 3 昨年度報告いただいた資料(昨年度報告施設のみ:別添)を加除修正して報告していただいて差し支えありません。

平成23年度 人工透析実施状況調査の結果概要

表1 透析実施医療機関(岩手県)

	23年度	うち夜間透析実施施設	備 考
医療機関数	45	16	
透析装置(台)	968	583	H22比35台増
透析患者数	2,816	1,814 (昼間含む)	県外患者 36人含む(腹膜除く)
余力(人)	642	471	=追加受入可能患者数(医療機関回答数)

(参考)

(1) 設備整備に係る国庫補助基準上の過不足(患者2人に対し1台を基準)

不足 440台 (= (透析患者数2,816-透析装置968×2)÷2)

(2) 調査結果から導かれる理論上の過不足(平均透析回数及び所要時間から導かれる必要台数)

余剰 122台 (=保有設備台数(968)-必要台数(846) (=患者数÷(ア/イ)=2,816人÷3.33))

ア(1台で対応可能な1週間の延べ患者数=10人(1日2人(8H/日÷4H/人)×5日))

イ(1週間当たりの平均透析回数=3回)

表2 透析患者数

	23年度	22年度	増減(人)	増減(率)	備 考
透析患者数	2,898	2,899	△1	△0.0	
うち人工透析	2,780	2,773	7	0.3	
うち入院	237	254	△17	△6.7	
通院	2,543	2,519	24	1.0	
うち男性	1,825	1,779	46	2.6	
女性	955	994	△39	△3.9	
性別不明	0	0	0	#DIV/0!	
うち夜間透析	395	428	△33	△7.7	
うち腹膜灌流	118	126	△8	△6.3	

表3 年齢階層別人工透析患者数(腹膜灌流患者を除く)

	20以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80以上	不明	計	備 考
人数	1	12	95	216	524	821	722	387	2	2,780	最高齢 98歳
構成比	0.04%	0.4%	3.4%	7.8%	18.8%	29.5%	26.0%	13.9%	0.1%	100.0%	最年少 20歳

表4 1人当たりの週平均透析回数・1回当たりの所要時間

週平均透析回数	2.9 回
所要時間	3.8 時間

表5 人工透析患者の入院・通院先医療機関

医療圏域内への入院・通院	2,631
医療圏域外への入院・通院	149
(うち県外医療機関)	22

表6 通院患者の通院に要する時間別人数

	～30分	30～60分	60～90分	90～120分	120以上	不明その他	計
人数	2,138	326	35	14	3	27	2,543
構成比	84.1%	12.8%	1.4%	0.6%	0.1%	1.1%	100.0%

※通院時間が90分を超える市町村：8市町村

盛岡市(2人)、八幡平市(4人)、雫石町(1人)、宮古市(1人)

葛巻町(6人)、藤沢町(1人)、住田町(1人)、岩泉町(1人)

表7 腎移植を受けた者の状況(平成11年度以降：医療機関から報告のあったもののみ把握)

	移植者	内 訳					
		H22	H23	生着	再透析	死亡	不明
生体移植	45	1	2	38	4	4	11
死体移植	11	1					
不明	1	1					
計	57	1	4				

表8
年度別透析等患者数

各年9月1日現在

年度 圏域・市町村名		年													
		23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	
保健医療圏別 ・ 市町村別人工透析患者数	盛岡	盛岡市	605	623	576	595	581	561	558	555	538	518	483	452	437
		八幡平市	70	71	61	66	68	67	64	61	62	63	61	65	58
		雫石町	45	39	41	38	36	40	42	41	38	30	36	28	28
		岩手町	40	43	39	38	36	38	36	36	40	40	38	30	29
		葛巻町	22	19	17	21	21	21	23	15	16	18	17	18	19
		滝沢村	108	104	100	99	101	96	98	88	89	82	78	63	61
		計	1,005	1,003	938	965	947	922	918	890	866	833	790	738	706
	岩手中部	花巻市	202	213	218	224	217	207	201	186	176	173	164	163	150
		計	169	160	148	148	149	135	132	130	132	117	103	100	99
		西和賀町	18	15	11	11	14	13	11	11	9	8	6	7	10
		遠野市	80	72	69	73	66	60	55	62	57	54	50	49	50
		計	469	460	446	456	446	415	399	389	374	352	323	319	309
	胆江	奥州市	263	252	263	241	239	231	199	206	196	196	196	201	177
		金ヶ崎町	28	25	30	26	21	21	19	17	18	18	19	20	20
		計	291	277	293	267	260	252	218	223	214	214	215	221	197
	両磐	一関市	246	264	256	243	252	237	229	224	205	195	182	166	151
		平泉町	18	17	17	19	14	12	12	11	11	12	9	10	10
		藤沢町	16	11	12	13	11	11	17	18	16	16	16	10	10
		計	280	292	285	275	277	260	258	253	232	223	207	186	171
	気仙	大船渡市	118	117	115	104	105	88	102	104	99	104	100	93	88
		陸前高田市	57	64	60	67	66	50	56	57	46	47	43	47	50
		住田町	19	18	17	18	18	15	18	20	18	19	21	17	16
		計	194	199	192	189	189	153	176	181	163	170	164	157	154
	釜石	釜石市	141	130	118	114	121	134	133	111	106	97	91	84	75
		大槌町	29	42	50	49	49	34	31	34	31	38	33	31	30
		計	170	172	168	163	170	168	164	145	137	135	124	115	105
	宮古	宮古市	179	170	169	175	168	165	163	156	153	148	141	135	139
		山田町	45	60	67	68	64	65	65	53	53	56	48	41	40
		岩泉町	34	32	33	35	34	33	35	30	28	25	22	23	19
		田野畑村	8	9	6	6	5	6	6	5	4	4	8	7	6
		計	266	271	275	284	271	269	269	244	238	233	219	206	204
	久慈	久慈市	47	52	47	47	48	49	50	50	50	43	39	37	43
		洋野町	39	38	36	27	29	24	25	21	20	19	26	25	21
		野田村	8	9	9	9	11	13	11	13	12	11	9	10	8
		普代村	5	5	7	7	3	3	3	5	4	6	4	5	5
		計	99	104	99	90	91	89	89	89	86	79	78	77	77
二戸	二戸市	87	75	68	70	66	63	62	58	63	67	56	57	51	
	一戸町	15	24	26	24	27	27	26	26	25	23	27	24	24	
	軽米町	14	15	12	10	7	8	8	11	16	15	16	13	13	
	九戸村	8	7	9	9	8	6	8	9	7	8	12	10	9	
	計	124	121	115	113	108	104	104	104	111	113	111	104	97	
合計		2,898	2,899	2,811	2,802	2,759	2,632	2,595	2,518	2,421	2,352	2,231	2,123	2,020	
対前年度		△1	88	9	43	127	37	77	97	69	121	108	103		
増減率(%)		0.0	3.1	0.3	1.6	4.8	1.4	3.1	4.0	2.9	5.4	5.1	5.1		

表9

保健医療圏別市町村別患者状況

平成23年9月1日 現在

区分	市町村番	患者計	腹膜灌流	人工透析実施施設の所在医療圏域別の患者数												備考
				人工透析	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	県外		
盛岡	盛岡市	1	605	32	573	570	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	八幡平市	2	70	5	65	61	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	栗石町	3	45	4	41	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	岩手町	4	40	0	40	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	葛巻町	5	22	0	22	17	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0
	滝沢村	6	108	9	99	99	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	紫波町	7	72	2	70	63	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	矢巾町	8	43	3	40	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		1005	55	950	931	10	0	0	0	0	0	2	4	3		
岩手中部		9	202	7	195	16	178	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	北上市	10	169	5	164	0	161	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	西和賀町	11	18	0	18	4	13	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	遠野市	12	80	2	78	4	72	0	0	2	0	0	0	0	0	0
計		469	14	455	24	424	4	0	2	0	0	0	0	0	1	
胆江	奥州市	13	263	6	257	1	3	252	1	0	0	0	0	0	0	0
	金ヶ崎町	14	28	0	28	0	13	15	0	0	0	0	0	0	0	0
計		291	6	285	1	16	267	1	0	0	0	0	0	0	0	
両磐	一関市	15	246	8	238	3	0	11	216	2	0	0	0	0	0	6
	平泉町	16	18	0	18	0	0	2	16	0	0	0	0	0	0	0
	藤沢町	17	16	2	14	0	0	1	13	0	0	0	0	0	0	0
計		280	10	270	3	0	14	245	2	0	0	0	0	0	6	
気仙	大船渡市	18	118	3	115	2	0	0	0	111	2	0	0	0	0	0
	陸前高田市	19	57	1	56	1	0	0	0	55	0	0	0	0	0	0
	住田町	20	19	1	18	1	2	0	0	15	0	0	0	0	0	0
計		194	5	189	4	2	0	0	181	2	0	0	0	0	0	
釜石	釜石市	21	141	8	133	3	1	0	0	1	128	0	0	0	0	0
	大槌町	22	29	4	25	1	1	1	0	0	22	0	0	0	0	0
計		170	12	158	4	2	1	0	1	150	0	0	0	0	0	
宮古	宮古市	23	179	9	170	4	0	0	0	2	0	164	0	0	0	0
	山田町	24	45	0	45	1	1	0	0	1	2	40	0	0	0	0
	岩泉町	25	34	0	34	3	0	0	0	0	0	31	0	0	0	0
	田野畑村	26	8	1	7	0	0	0	0	0	0	4	3	0	0	0
計		266	10	256	8	1	0	0	3	2	239	3	0	0	0	
久慈	久慈市	27	47	3	44	0	1	0	0	0	0	0	43	0	0	0
	洋野町	28	39	1	38	0	0	0	0	0	0	0	27	0	11	
	野田村	29	8	0	8	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	
	普代村	30	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	
計		99	4	95	0	1	0	0	0	0	0	82	0	12		
二戸	二戸市	31	87	1	86	4	0	0	0	0	0	0	0	82	0	0
	一戸町	32	15	0	15	5	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0
	軽米町	33	14	1	13	0	0	0	0	0	0	0	1	12	0	0
	九戸村	34	8	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0
計		124	2	122	9	0	0	0	0	0	0	1	112	0	0	
合計		2,898	118	2,780	984	456	286	246	189	154	239	88	116	22		
平成22年度合計		2,899	126	2,773	985	443	265	254	205	156	245	90	109	21		
増減	H23-H22		△1	△8	7	△1	13	21	△8	△16	△2	△6	△2	7	1	

表 1 0

腎不全患者（人工透析患者）の入院・通院状況（市町村別）

平成23年9月1日現在

医療圏	市町村名	通院患者数	(うち夜間通院患者数)	うち入院患者数	うち通院者の交通手段・所要時間別人数																																																																												備考
					自動車					バス・鉄道					タクシー					バイク・自転車					徒歩					送迎バス					その他・不明					合計																																									
					30分以内	60分以内	90分以内	120分以上	不明	30分以内	60分以内	90分以内	120分以上	不明	30分以内	60分以内	90分以内	120分以上	不明	30分以内	60分以内	90分以内	120分以上	不明	30分以内	60分以内	90分以内	120分以上	不明	30分以内	60分以内	90分以内	120分以上	不明	30分以内	60分以内	90分以内	120分以上	不明	30分以内	60分以内	90分以内	120分以上	不明	30分以内	60分以内	90分以内	120分以上	不明																																
	号番分区	2	1		11	12	13	14	15	16	21	22	23	24	25	26	31	32	33	34	35	36	41	42	43	44	45	46	51	52	53	54	55	56	61	62	63	64	65	66	71	72	73	74	75	76																																			
盛岡圏	盛岡市	1	573 (158)	48	338	24	4	0	0	0	27	8	2	2	0	0	61	6	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	12	2	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	3	473	41	6	2	0	3																												
	八幡平市	2	65 (9)	9	13	10	6	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	6	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	26	17	9	4	0	0																													
	雫石町	3	41 (8)	4	23	9	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	10	1	1	0	0																												
	岩手町	4	40 (4)	7	10	4	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	24	4	4	0	0	1																												
	巻町	5	22 (1)	3	0	4	1	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	6	1	4	2	4	2	6																														
	滝沢村	6	99 (43)	4	77	5	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85	10	0	0	0	0																												
	滝波町	7	70 (12)	13	46	5	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	5	0	0	0	0																										
	朱野町	8	40 (11)	1	31	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																											
計		950 (246)	89	538	62	13	5	0	0	30	12	6	3	2	0	71	6	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	20	1	0	0	0	48	10	3	3	0	0	3	2	0	0	0	10	723	93	22	11	2	10																															
岩手中部	花巻市	9	195 (18)	15	121	11	9	0	0	0	2	3	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	163	15	2	0	0	0																														
	北上市	10	164 (14)	5	98	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	29	7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	149	9	1	0	0	0																														
	西和賀町	11	18 (1)	3	9	2	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																												
	遠野市	12	78 (13)	5	58	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	67	4	2	0	0	0																														
計		455 (46)	28	286	15	2	0	0	0	5	6	0	0	0	0	39	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	46	10	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	380	31	6	0	0	0																															
胆江	奥州市	13	257 (30)	36	155	11	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	26	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	207	14	0	0	0	0																													
	金ヶ崎町	14	28 (3)	3	17	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	5	0	0	0	0																														
	計		285 (33)	39	172	12	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	28	6	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	227	19	0	0	0	0																													
同登	一関市	15	238 (25)	19	109	33	0	0	0	0	9	4	1	0	0	0	17	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	13	10	1	0	0	0	2	8	0	0	0	0	6	155	56	2	0	0	6																													
	平泉町	16	18 (1)	0	8	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	6	0	0	0	0																													
	平藤町	17	14 (3)	3	3	3	9	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																												
計		270 (29)	22	120	40	0	0	0	0	9	6	1	1	0	0	18	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	16	11	1	0	0	0	2	11	0	0	0	6	170	69	2	1	0	6																															
気仙	大船渡市	18	115 (1)	9	57	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	32	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	99	3	0	0	0	4																													
	陸前高田市	19	56 (0)	7	20	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	48	1	0	0	0	0																												
	住田町	20	18 (1)	2	5	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																											
	計		189 (2)	18	82	5	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	58	6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	4	155	11	0	1	0	4																														
釜石	釜石市	21	133 (6)	6	56	6	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	8	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	2	110	14	1	0	0	2																														
	大槌町	22	25 (3)	2	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	17	0	0	0	0																														
	計		158 (9)	8	61	11	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	20	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	2	116	31	1	0	0	2																														
富古	富岡市	23	170 (12)	13	105	7	0	1	0	0	13	5	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	142	12	0	1	0	2																											
	山田町																																																																																

表11

市町村別年齢階層別患者状況

平成23年9月1日

区 分	市町村番号	患者計	腹膜灌流	人工透析	年齢階層別人工透析患者数									不明	備考
					20歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上			
(区分番号)					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
盛岡	盛岡市	1	605	32	573	1	1	25	49	108	178	140	71	0	
	八幡平市	2	70	5	65	0	1	1	6	16	21	14	6	0	
	雫石町	3	45	4	41	0	0	2	2	5	17	13	2	0	
	岩手町	4	40	0	40	0	0	1	1	5	15	8	10	0	
	葛巻町	5	22	0	22	0	0	0	0	7	4	6	5	0	
	滝沢村	6	108	9	99	0	0	6	7	21	38	16	11	0	
	紫波町	7	72	2	70	0	1	0	10	11	24	15	9	0	
矢巾町	8	43	3	40	0	1	2	2	8	13	10	4	0		
		1005	55	950	1	4	37	77	181	310	222	118	0		
岩手中部	花巻市	9	202	7	195	0	1	6	9	40	59	55	25	0	
	北上市	10	169	5	164	0	2	6	20	28	53	38	17	0	
	西和賀町	11	18	0	18	0	0	1	0	4	5	5	3	0	
	遠野市	12	80	2	78	0	0	2	3	18	25	24	6	0	
		469	14	455	0	3	15	32	90	142	122	51	0		
胆江	奥州市	13	263	6	257	0	2	3	18	39	77	64	54	0	
	金ヶ崎町	14	28	0	28	0	0	2	0	5	10	7	4	0	
			291	6	285	0	2	5	18	44	87	71	58	0	
両磐	一関市	15	246	8	238	0	1	5	14	47	75	57	39	0	
	平泉町	16	18	0	18	0	0	0	1	2	2	8	5	0	
	藤沢町	17	16	2	14	0	0	0	3	3	2	4	2	0	
		280	10	270	0	1	5	18	52	79	69	46	0		
気仙	大船渡市	18	118	3	115	0	0	3	10	26	30	35	11	0	
	陸前高田市	19	57	1	56	0	1	0	2	7	11	21	12	2	
	住田町	20	19	1	18	0	0	0	3	5	3	6	1	0	
			194	5	189	0	1	3	15	38	44	62	24	2	
釜石	釜石市	21	141	8	133	0	0	6	8	15	38	46	20	0	
	大槌町	22	29	4	25	0	0	1	2	7	9	5	1	0	
			170	12	158	0	0	7	10	22	47	51	21	0	
宮古	宮古市	23	179	9	170	0	0	4	19	36	41	48	22	0	
	山田町	24	45	0	45	0	0	1	5	8	15	14	2	0	
	岩泉町	25	34	0	34	0	0	1	4	8	8	7	6	0	
	田野畑村	26	8	1	7	0	0	0	0	3	0	2	2	0	
			266	10	256	0	0	6	28	55	64	71	32	0	
久慈	久慈市	27	47	3	44	0	0	5	4	10	7	14	4	0	
	洋野町	28	39	1	38	0	0	1	2	5	11	13	6	0	
	野田村	29	8	0	8	0	0	0	1	2	1	2	2	0	
	普代村	30	5	0	5	0	0	0	0	1	2	2	0	0	
			99	4	95	0	0	6	7	18	21	31	12	0	
二戸	二戸市	31	87	1	86	0	1	8	9	16	19	18	15	0	
	一戸町	32	15	0	15	0	0	1	1	3	5	1	4	0	
	軽米町	33	14	1	13	0	0	2	0	4	1	3	3	0	
	九戸村	34	8	0	8	0	0	0	1	1	2	1	3	0	
			124	2	122	0	1	11	11	24	27	23	25	0	
合 計		2,898	118	2,780	1	12	95	216	524	821	722	387	2		

表12.

透析が必要となった理由

平成23年9月1日現在

No	疾患名等	患者数	割合
1	糖尿病性腎症	679	38.6%
2	慢性糸球体腎炎	442	25.2%
3	腎硬化症	114	6.5%
4	多発性嚢胞腎	60	3.4%
5	IgA腎症	53	3.0%
6	高血圧	42	2.4%
7	ネフローゼ症候群	30	1.7%
8	妊娠腎／妊娠中毒症	22	1.3%
9	急速進行性糸球体腎炎	9	0.5%
10	慢性腎盂腎炎	8	0.5%
11	SLE腎炎	6	0.3%
12	痛風腎	6	0.3%
13	先天性代謝異常による腎不全	4	0.2%
14	腎形成不全	4	0.2%
15	腎・尿路腫瘍	4	0.2%
16	腎・尿路結核	2	0.1%
17	腎・尿路結石	2	0.1%
18	移植後再導入	2	0.1%
19	閉塞性尿路障害	1	0.1%
20	その他の腎炎等	256	14.6%
21	その他	11	0.6%
	計	1,757	100.0%

※1 血液透析患者2,780人のうち、「不明」及び「無回答」の者を除いた集計であること。

※2 上記の集計方法(疾患名等)は、概ね「日本透析医学会統計調査委員会」の集計方法に準じていること。

※3 本調査は今回初めて行ったものであるため、次回調査以降は集計方法を見直す可能性があること。

厚生労働省科学研究費補助金(腎疾患対策総合研究事業)
健診データを基盤として、慢性腎臓病該当者の医療費過剰支出と
末期腎不全発症リスクを評価するデータベース構築研究
分担研究報告書

岩手県北地域コホート研究参加者を対象とした医療費分析
—進捗状況ならびに解析結果—

研究分担者 丹野高三(岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座)

研究要旨

【背景】慢性腎臓病(CKD)は総死亡や循環器疾患のリスク上昇に関連しているが、CKD が将来の医療費の過剰支出にどの程度影響しているのかは明らかでない。本研究では平成 14 年度から実施されている地域ベースの大規模な前向きコホート研究である岩手県北地域コホート研究(県北コホート研究)の参加者 26,469 人を対象として医療費分析を行い、CKD が医療費に及ぼす影響を定量的に評価することを目的としている。本分担報告では①平成 22 年度までに収集された医療費データを用いて CKD 該当者と非該当者との間で医療費を比較し、CKD 該当者の医療費過剰支出を明らかにする。②平成 23 年度に実施した医療費情報収集の進捗状況を報告する。

【方法】①平成 22 年度までに医療費情報を収集した県北コホート研究参加 12 市町村中 5 市町村の 75 歳未満の研究参加者 5,142 人のレセプトデータを収集した。このうち本研究では治療歴のない 75 歳未満の対象者 3,469 人を解析対象とした。推算糸球体濾過率(eGFR)は CKD-EPI の日本人修正式を用いた。CKD は $eGFR < 60 \text{ ml/min/1.73m}^2$ または尿アルブミンクレアチニン比 $\geq 30 \text{ mg/g}$ と定義した。CKD 該当者と非該当者の間で 1 人当たり 1 か月当たりの総医療費、外来医療費、入院医療費を Mann-Whitney U test を用いて比較した。また共分散分析を用いて、性、年齢、古典的危険因子を調整した上で、CKD 該当者と非該当者との間で総医療費、外来医療費を比較した。入院医療費についてはロジスティック回帰を用いて、性、年齢、古典的危険因子を調整して、CKD 非該当者に対する CKD 該当者の入院医療リスクとして多変量調整オッズ比を計算した。②平成 23 年度は残る 7 市町村の医療費情報を収集する予定であったが、東日本大震災による被害が甚大であった沿岸の研究参加市町村での医療費情報収集を断念した。一方、比較的被害が少なかった内陸の研究参加 4 市町村において参加者 9,442 人の平成 18 年 8 月から平成 23 年 2 月まで(55 か月間)の医療費情報を収集した。

【結果】①1 か月当たりの平均総医療費は CKD 該当者(24,596 円)で非該当者(17,605 円)より有意に高かった($P < 0.001$)。外来医療費ならびに入院医療費も同様の結果であった。総医療費ならびに外来医療費では多変量調整しても有意差が認められた(それぞれ $P = 0.017$ と P